

## 平成18年の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴について

平成18年の梅雨入りは九州南部と東北南部を除いて平年より遅く、梅雨明けは南西諸島を除いて遅かった。降水量は、全国的に平年より多く、特に7月は平年よりかなり多い降水量となった地域があった。東北北部の降水量は平年より少なかった。日照時間は全国的に平年より少なかった。

気象庁では、毎年、春から夏にかけての実際の天候経過を総合的に検討し、各地の梅雨入りと梅雨明けの確定及び梅雨時期の特徴のまとめを行っています。今般、平成18年の梅雨についてとりまとめた結果は以下のとおりです。

### 1. 梅雨入り及び梅雨明けの事後検討

各地方ごとに、地方全体としての季節の推移を精査した結果、おおむね当初発表どおりの時期で確定した。一部の地方については、入り・明けの遷移期間（5日程度）の中で調整を行った。中国、東海地方では、梅雨明けを当初発表より4日早い7月26日ごろとした。（検討結果は、別表1及び2を参照）

### 2. 梅雨時期の特徴

#### （1）梅雨入り

九州南部と東北南部では平年より早い梅雨入りとなった。その他の地域では平年と同じか平年より遅い梅雨入りとなった。

#### （2）梅雨明け

南西諸島は平年より早い梅雨明けとなった。その他の地域では平年より遅い梅雨明けとなり、平年より1週間から10日程度遅い梅雨明けとなった。特に、九州南部では平年よりも2週間近く遅かった。

#### （3）梅雨前線

梅雨前線は、6月前半は南西諸島から日本の南海上に位置することが多く、活動が活発だったが、下旬には西日本に停滞することが多くなった。7月に入ると、梅雨前線は本州上に停滞することが多く、特に中旬後半から下旬前半にかけては活動が非常に活発となった。

#### （4）降水量

梅雨時期の降水量は、東北北部を除いて平年よりも多かった。5月下旬から6月中旬にかけては、活動が活発な梅雨前線の影響を受けた南西諸島で降水量が多くなり、奄美地方では梅雨時期の降水量がかなり多くなった。また、7月は本州付近で前線の活動が活発となったために、西日本から東日本、東北南部で降水量が平年よりかなり多くなった地域があり、平成18年7月豪雨が発生し、記録的な大雨となったところがあった。一方、東北北部では、6月から7月の降水量が平年の8割程度となった。

## 平成18年梅雨入り・明け（事後検討結果）

地域名	梅雨入りと階級(*1)			梅雨明けと階級(*1)			梅雨時期の降水量 平年比と階級(*2)
	事後検討	当初発表	平年	事後検討	当初発表	平年	
沖縄	5月14日ごろ(+)	5月14日ごろ	5月8日ごろ	6月20日ごろ(0)	6月20日ごろ	6月23日ごろ	133%(+)
奄美	5月11日ごろ(0)	5月13日ごろ	5月10日ごろ	6月22日ごろ(-)	6月20日ごろ	6月28日ごろ	151%(+)*
九州南部	5月26日ごろ(-)	5月26日ごろ	5月29日ごろ	7月25日ごろ(+)*	7月26日ごろ	7月13日ごろ	116%(+)
九州北部	6月8日ごろ(+)	6月8日ごろ	6月5日ごろ	7月26日ごろ(+)	7月26日ごろ	7月18日ごろ	140%(+)
四国	6月8日ごろ(+)	6月8日ごろ	6月4日ごろ	7月26日ごろ(+)	7月26日ごろ	7月17日ごろ	118%(+)
中国	6月8日ごろ(+)	6月8日ごろ	6月6日ごろ	7月26日ごろ(+)	7月30日ごろ	7月20日ごろ	147%(+)*
近畿	6月8日ごろ(+)	6月8日ごろ	6月6日ごろ	7月27日ごろ(+)	7月30日ごろ	7月19日ごろ	139%(+)
東海	6月8日ごろ(0)	6月8日ごろ	6月8日ごろ	7月26日ごろ(+)	7月30日ごろ	7月20日ごろ	101%(0)
関東甲信	6月9日ごろ(0)	6月9日ごろ	6月8日ごろ	7月30日ごろ(+)	7月30日ごろ	7月20日ごろ	120%(+)
北陸	6月15日ごろ(+)	6月15日ごろ	6月10日ごろ	7月30日ごろ(+)	7月30日ごろ	7月22日ごろ	155%(+)*
東北南部	6月9日ごろ(0)	6月9日ごろ	6月10日ごろ	8月2日ごろ(+)*	8月2日ごろ	7月23日ごろ	155%(+)*
東北北部	6月15日ごろ(+)	6月15日ごろ	6月12日ごろ	8月2日ごろ(+)	8月2日ごろ	7月27日ごろ	83%(-)

(\*1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「\*\*日ごろ」と表現した。

記号の意味は、(+)\*: かなり遅い、(+): 遅い、(0): 平年並、(-): 早い、(-)\*: かなり早い、の階級区分を表す。

(\*2) 全国153の气象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期（6～7月。沖縄と奄美地方は5～6月）の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)\*: かなり多い、(+): 多い、(0): 平年並、(-): 少ない、(-)\*: かなり少ない、の階級区分を表す。

※ 階級区分について

1971～2000年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

	33%		33%	33%	
	10%	23%		23%	10%
梅雨入り・明け	かなり遅い	遅い	平年並	早い	かなり早い
降水量	かなり多い	多い	平年並	少ない	かなり少ない

代表地点における梅雨期間の降水量（参考）

地域名	代表地点	梅雨期間降水量（同期間の平年値合計）
沖縄	那覇	599.0mm（310.8mm）
奄美	名瀬	997.5mm（491.6mm）
九州南部	鹿児島	951.0mm（733.9mm）
九州北部	福岡	725.5mm（463.4mm）
四国	高松	424.5mm（253.4mm）
中国	広島	605.0mm（428.7mm）
近畿	大阪	474.5mm（317.5mm）
東海	名古屋	489.0mm（356.9mm）
関東甲信	東京	301.0mm（295.0mm）
北陸	新潟	527.5mm（264.1mm）
東北南部	仙台	451.0mm（280.3mm）
東北北部	青森	132.5mm（153.0mm）

※ 参考として、各地域の代表的な地点の入りの遷移期間のおおむね中日から明けの遷移期間のおおむね中日の前日までの降水量の合計値を示した。括弧内には、同期間の日別平滑平年値の合計値を示した。

平成18年 各地域の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴

沖 縄

梅雨入りは遅かった。降水量は後半多かった。日照時間は少なく、後半かなり少なかった。

奄 美

梅雨明けは早かった。降水量は多かった。日照時間は前半かなり少なかった。

九州南部

梅雨入りは早かったが、明けはかなり遅かった。降水量は後半多かった。気温は高かった。

九州北部

梅雨入り・明けは遅かった。降水量は後半多かった。日照時間は後半少なかった。

四 国

梅雨入り・明けは遅かった。降水量は後半多かった。日照時間は後半かなり少なかった。

中 国

梅雨入り・明けは遅かった。降水量は後半かなり多かった。日照時間は前半多かったが、後半かなり少なかった。

近 畿

梅雨入り・明けは遅かった。降水量は後半かなり多かった。日照時間は後半かなり少なかった。

東 海

梅雨明けは遅かった。降水量は後半多かった。日照時間は後半かなり少なかった。

関東甲信

梅雨明けは遅かった。降水量は前半少なかったが、後半かなり多かった。日照時間は前半少なく、後半はかなり少なかった。

北 陸

梅雨入り・梅雨明けは遅かった。降水量は、前半かなり少なかったが、後半かなり多かった。日照時間は、後半かなり少なかった。

東北南部

梅雨明けはかなり遅かった。降水量は後半かなり多かった。日照時間は、後半かなり少なかった。

東北北部

梅雨入り・明けは遅かった。日照時間は前半少なく、後半かなり少なかった。

(注) 前半は6月、後半は7月(沖縄と奄美地方はそれぞれ5月、6月)の地域平均値による。